

# 新基金の背景

## あいちモリコロ基金の継承と休眠預金活用制度

「新基金フォーラム」シリーズ3  
「休眠預金活用制度と新基金」  
新基金賛同者ネットワーク/2017.2.26

①「あいちモリコロ基金」は、「2005年愛・地球博」の剰余金約13億円を原資に、「社会貢献活動」を支援するため設立され、毎年約1億円が助成されてきましたが、平成30年度をもって終了します。

そこで、“基金の理念と成果を継承するとともに、新しい時代に対応する”「新基金」づくりが検討されています。(市民団体、学識者、経済界、行政関係者からの賛同署名が現在、3,607件)

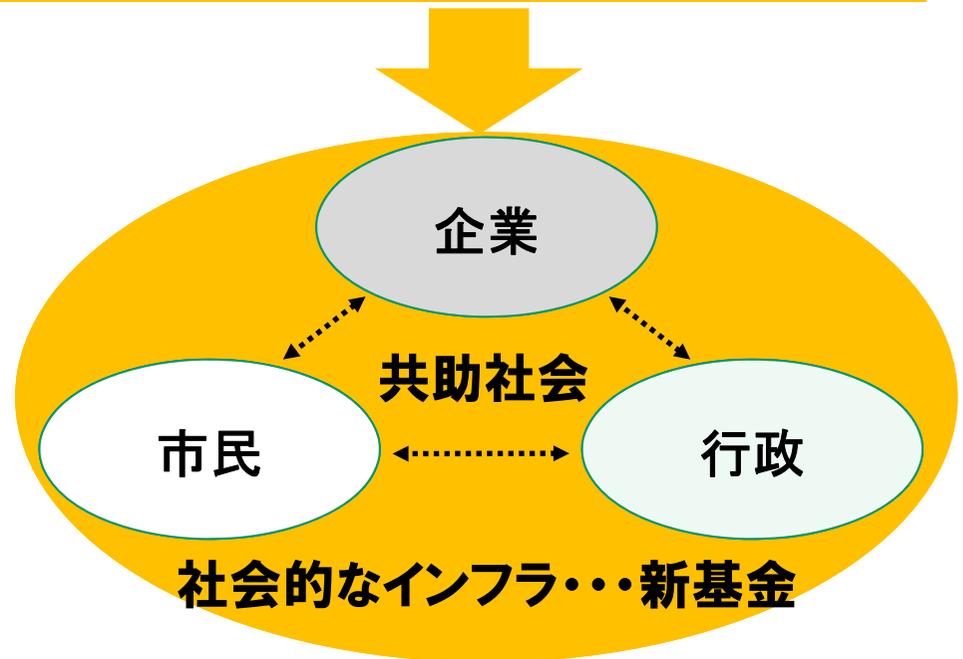
②一方、平成28年12月に「休眠預金活用法」が成立し、毎年およそ500億円が「民間公益活動」支援に充てられます。平成31年秋にはスタートする見通しで、「資金分配団体」から「民間公益活動団体」に助成・貸付・出資などの方法で提供されます。

「新基金」について、この地域での資金分配団体として設立することが出来るのではないかと考えて検討しています。

(あいちモリコロ基金:正式名称公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金)

## 新基金のポジション

これからは、「共助社会」を支え活性化する社会的インフラが重要

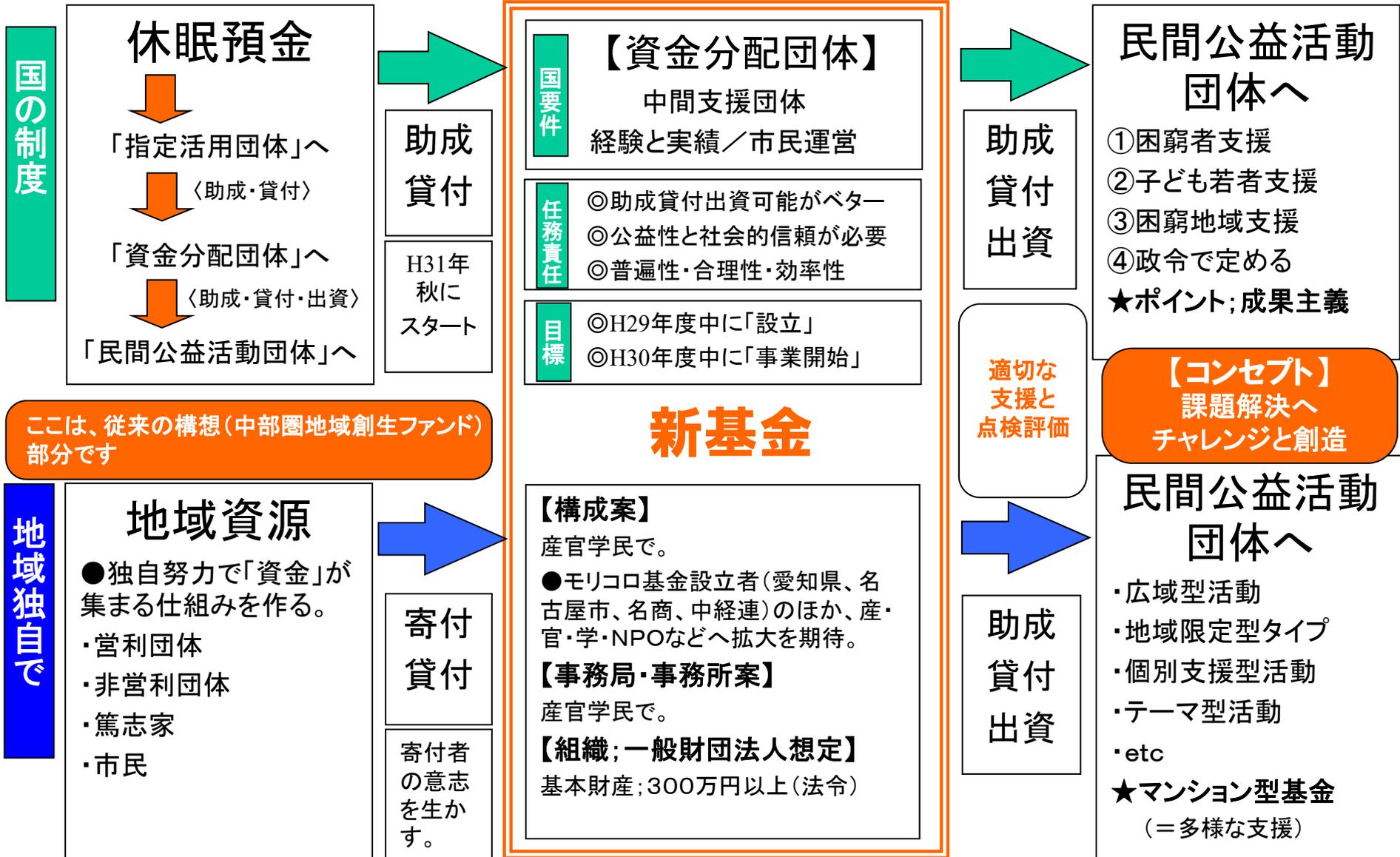


「新基金」は大きな社会的インフラ・仕組みとなることが期待されます。  
(=規模も大きく広がりがある、地域や課題を網羅出来る、より多くの人に役立つ)

—休眠預金活用法成立を受けて—  
**「新基金」の運営構想案**  
 (資金の流れと運営) Ver1(2017.2.26)

**新基金の目的**

- ◎「あいちモリコロ基金」の理念と成果を継承する。
- ◎これからの時代に必要な活動・人・組織を育てる。



# “地域資源の開発活用”のイメージ(仮称:中部圏地域創生ファンド Ver3)

★「共創力」・「地域力」の向上、民間公益セクターの活性化、市民公益活動を育てる、地域社会に貢献する！  
～中部圏の資源を集めて、中部圏に投入、強靱な「中部圏」をつくる～

## 多種多様な寄付を募る

### 寄付者の意向 (企業・団体・個人)

- ・自然環境保全
- ・防災・減災
- ・地域創生/まちづくり
- ・起業促進
- ・コミュニティ活性化

### 寄付の形態

- ・慈善
- ・遺贈
- ・CSR
- ・地域協力
- ・その他

## 多種多様な支援をする

### ■「愛知万博・モリコロ基金の継承」

(愛・地球博理念;持続可能な社会創り)

- 新たな機軸 ①中部圏の課題対応  
(南海トラフ地震、スーパーメガリージョン等)
- 新たな機軸 ②人材・組織の育成  
(人材開発、研究支援、地域力形成)
- 新たな機軸 ③寄付者の意向を活かす  
(市民の自発性)
- 新たな機軸 ④多種多様な基金集合  
(マンション型寄付の効率的・合理的運営)

### 非営利部門への助成

- モリコロ基金の継承
- 新たな課題への対応
- 人材育成、組織育成

### 営利部門への助成

- 創業・起業支援
- コミュニティビジネス育成

連携

働きかけ

寄付

支援

## 新基金

## 基盤をつくる

### 行政

- ・愛知県
- ・名古屋市
- ・その他

### 企業 団体 個人

連携

官がまず信頼を作り民間力を引出す

## 事業の展開

運営体制の充実(資金・人・場所)/信頼性の確保/事業の継続

- 基礎財源(10年借款・年2000万円の資金創出など多様な案の検討)
- 審査能力、業務遂行力、成果点検、助言指導力の確保。
- 役員と実務者の確保。  
(行政等からの出向者とプロパーで数名)
- 公共的施設又は準ずる場所を事務所に借りる。
- 一般財団法人で発足し、3～5年で公益法人に転換。  
(5年～10年で安定運営軌道に乗せる)

展開

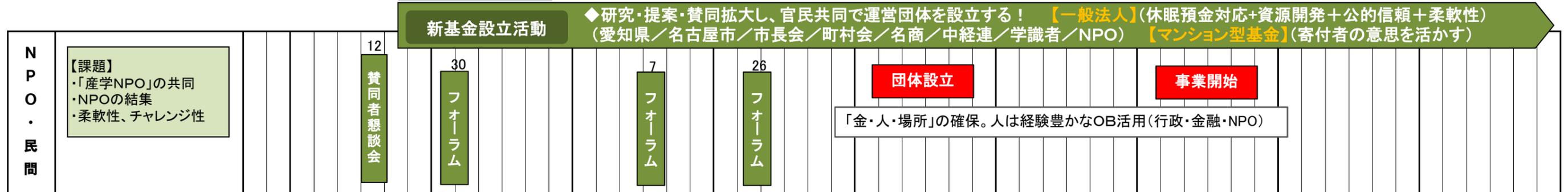
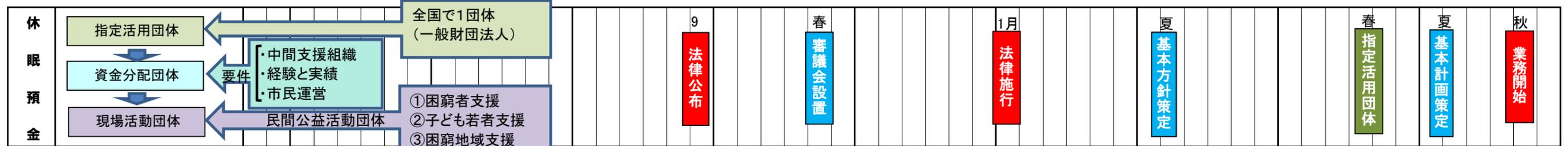
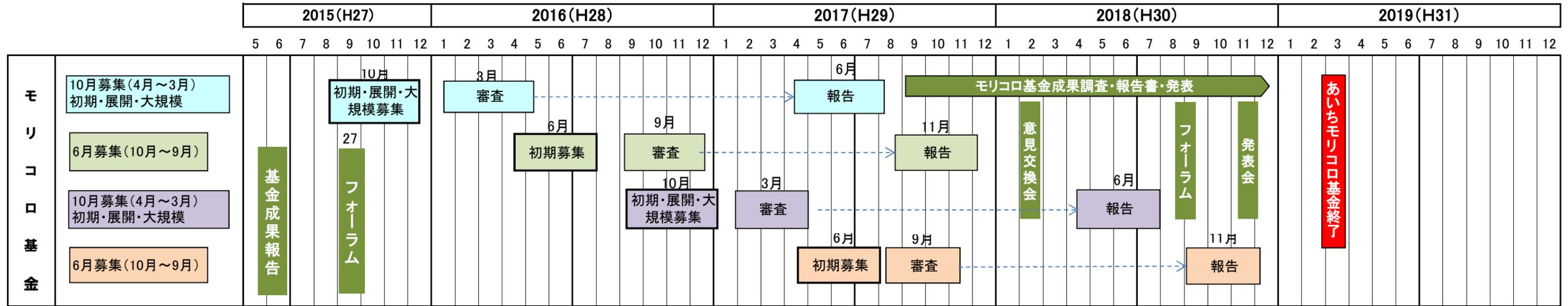
# あいちモリコロ基金を継承する「新基金」について(スケジュール)

2017/1/12 新Ver1

**目的** ◆愛・地球博の理念と成果を継承した「あいちモリコロ基金」を継承する  
◆これからの時代に必要な民間公益活動を育てる。安心安全な持続型社会を創る

**機能** ◆シンクタンク機能、課題解決、創造・開発、戦略性、団体・人材育成。  
◆公益性と信頼、柔軟性・多様性、産官学民共同で普遍性。

**課題** ◆南海トラフ巨大地震 ◆少子高齢化 ◆多文化共生 ◆地域コミュニティ ◆リニア ◆etc



## 【あいちモリコロ基金】

- ・愛・地球博は官民共同で成功。市民・NPO・ボランティアの協力を評価。
- ・余剰金の一部は、市民・NPO・ボランティア活動に充てる。
- ・「万博協会・愛知県・名古屋市・名商・中経連」が公益信託として設立。
- ・万博剰余金で市民活動基金が生まれたのは歴史上初。
- ・2007年モリコロ基金スタート。13億円をおよそ10年で使い切ると設計。
- ・「初期(30万)」「展開期(100万)」「大規模(500万)」の3種類・年約1億円助成。
- ・中部5県の市民活動を育て、協働を推進、地域や社会の課題解決に貢献。

## 【休眠預金活用制度】 \* 国が制度設計

- ・2016/12/9公布。年間約500億円を民間公益活動に「助成・貸付・出資」。
- ・2019(H31)秋に業務スタート。
- ・資金は「指定活用団体」⇒「資金分配団体」⇒「現場活動団体」と流れる。
- ・「資金分配団体」は、「中間支援組織・経験と実績・市民運営」が要件。
- ・この仕組みが「呼び水」となって、地域に「資金の流れが新たに出来る」ことが期待されている。

## 【マンション型基金】

- ・モデルは「大阪コミュニティ財団」(1991設立)、大阪商工会議所が事務局。
- ・大阪関西が中心、全国から「資金」を集め、全国「支援」。年間1億円弱。
- ・企業名や個人名を冠にしたもの、市民の小口寄付を集めるもの、奨学金など。
- ・100を超える種類の「基金」がマンションのように独立し共存、共同管理運営。
- ・「寄付者の意思を活かす」「共同管理運営で効率化」などが特性。